

# 箱根町の財政状況等に関する町民アンケート 集計結果

平成27年9月  
箱根町特定政策推進室

## 目次

---

1. アンケート調査の実施概要	02
2. 結果の見方	03
3. 回答者属性データ	04
4. 集計結果	06
①単純集計結果	06
②設問間クロス(問1～8×問9)集計結果	15
③属性クロス集計結果	17
④問1～9に関するまとめ	26
⑤自由記述	27
5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表	28
6. 参考資料2 自由記述回答結果等	37

## 1. アンケート調査の実施概要

---

- **目的**

このアンケートは、町の財政状況や新たな財源確保に向けた取り組みについて、町民の皆さまのご認識を把握するため実施した。

- **実施時期**

平成27年7月22日～8月5日

- **実施対象**

箱根町民

- **実施方法**

郵送法(発送はメール便、回収は郵便を利用)

- **アンケート回収/配布数**

268/1,200(回収率22.3%)

- **有効回答数**

268

2

## 2. 結果の見方

---

- 図表中の「n」とは、その質問での集計対象数のことである。
- 回答は、集計対象数を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入している。このため、回答率の合計が、100%にならないことがある。
- アンケート集計にあたり、結果をより把握しやすくするため、以下の通り選択肢を集約している。

### 《問1～9の選択肢の集約》

問1～9では、次の通り選択肢を集約した(以降のページではこの集約の方法を「2分法」と称する)。

問1～8の選択肢「よく知っていた」「ある程度知っていた」を「知っていた」に、「あまり知らなかった」「まったく知らなかった」を「知らなかった」にそれぞれ集約。

問9の選択肢「新たな負担の必要性は理解できる」「新たな負担の必要性はある程度は理解できる」を「新たな負担の必要性は理解できる」に、「新たな負担の必要性はあまり理解できない」「新たな負担の必要性はまったく理解できない」を「新たな負担の必要性は理解できない」にそれぞれ集約。

### 《年齢の選択肢の集約》

属性クロス結果では、属性の年齢層の選択肢を3区分に集約した。

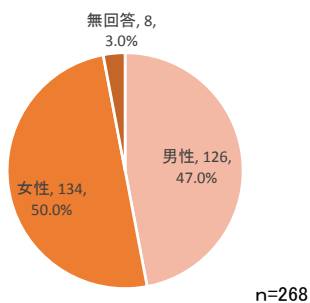
「20歳代」「30歳代」を「20～30歳代」、「40歳代」「50歳代」を「40～50歳代」、

「60歳代」「70歳以上」を「60歳以上」にそれぞれ集約。

3

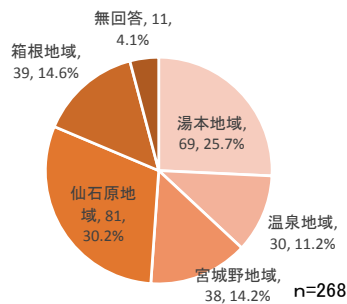
### 3. 回答者属性データ

#### 性別



	件数	割合
男性	126	47.0
女性	134	50.0
無回答	8	3.0
合計	268	100.0

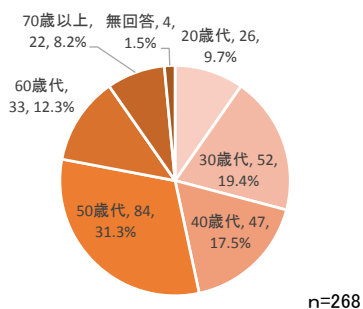
#### お住まいの地域



	件数	割合
湯本地域	69	25.7
温泉地域	30	11.2
宮城野地域	38	14.2
仙石原地域	81	30.2
箱根地域	39	14.6
無回答	11	4.1
合計	268	100.0

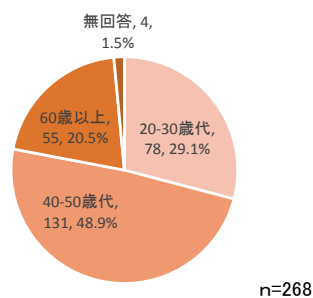
### 3. 回答者属性データ

#### 年齢層



	件数	割合
20歳代	26	9.7
30歳代	52	19.4
40歳代	47	17.5
50歳代	84	31.3
60歳代	33	12.3
70歳以上	22	8.2
無回答	4	1.5
合計	268	100.0

#### 年齢層(3区分)



	件数	割合
20-30歳代	78	29.1
40-50歳代	131	48.9
60歳以上	55	20.5
無回答	4	1.5
合計	268	100.0

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果:町税収入の減少について

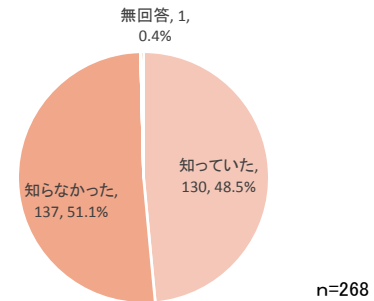
問1 町の町税収入が大幅に減少していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	33	12.3
ある程度知っていた	97	36.2
あまり知らなかった	71	26.5
まったく知らなかった	66	24.6
無回答	1	0.4
合計	268	100.0

##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	130	48.5
知らなかった	137	51.1
無回答	1	0.4
合計	268	100.0



- 町税収入の減少について、2分法による集計を見ると、約5割の回答者が「知っていた」と回答している。

6

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果:社会保障費の増加について

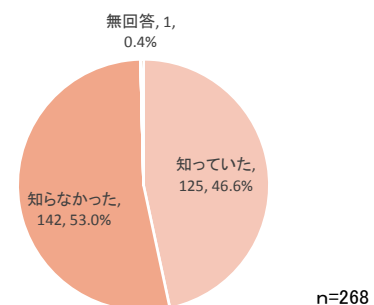
問2 町の社会保障費が大幅に増加していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	24	9.0
ある程度知っていた	101	37.7
あまり知らなかった	76	28.4
まったく知らなかった	66	24.6
無回答	1	0.4
合計	268	100.0

##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	125	46.6
知らなかった	142	53.0
無回答	1	0.4
合計	268	100.0



- 社会保障費の増加について、2分法による集計を見ると、約5割の回答者が「知っていた」と回答している。

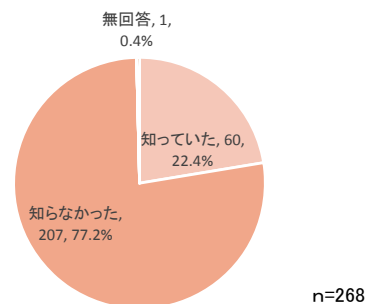
7

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果:公債費の増加について

問3 町の公債費(借入金返済)が大幅に増加していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	13	4.9
ある程度知っていた	47	17.5
あまり知らなかった	111	41.4
まったく知らなかった	96	35.8
無回答	1	0.4
合計	268	100.0



##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	60	22.4
知らなかった	207	77.2
無回答	1	0.4
合計	268	100.0

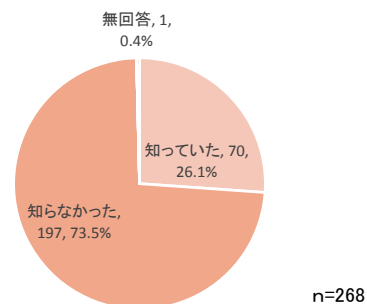
- 公債費の増加について、2分法による集計を見ると、約2割の回答者が「知っていた」と回答している。

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果:事務量の増加について

問4 町では介護保険などの制度改正や権限移譲などにより事務量が増加していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	15	5.6
ある程度知っていた	55	20.5
あまり知らなかった	103	38.4
まったく知らなかった	94	35.1
無回答	1	0.4
合計	268	100.0



##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	70	26.1
知らなかった	197	73.5
無回答	1	0.4
合計	268	100.0

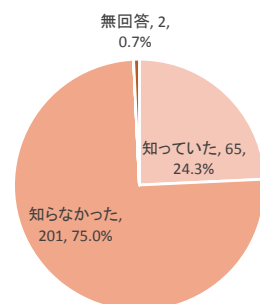
- 事務量の増加について、2分法による集計を見ると、約3割の回答者が「知っていた」と回答している。

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果：人件費の削減について

問5 町では10年以上にわたり人件費を削減してきていることをご存知でしたか。

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	11	4.1
ある程度知っていた	54	20.1
あまり知らなかった	103	38.4
まったく知らなかった	98	36.6
無回答	2	0.7
合計	268	100.0



n=268

##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	65	24.3
知らなかった	201	75.0
無回答	2	0.7
合計	268	100.0

- 人件費を削減してきていることについて、2分法による集計を見ると、約2割の回答者が「知っていた」と回答している。

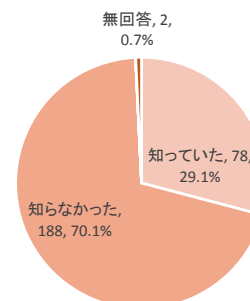
10

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果：社会インフラの維持のための経費削減について

問6 町では建物や道路等の社会インフラの老朽化が進んでいるにもかかわらず、その維持のための経費を削減していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	19	7.1
ある程度知っていた	59	22.0
あまり知らなかった	99	36.9
まったく知らなかった	89	33.2
無回答	2	0.7
合計	268	100.0



n=268

##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	78	29.1
知らなかった	188	70.1
無回答	2	0.7
合計	268	100.0

- 社会インフラの維持のための経費を削減していることについて、2分法による集計を見ると、約3割の回答者が「知っていた」と回答している。

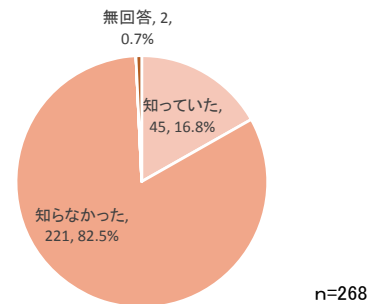
11

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果:基金の残高状況について

問7 町の基金(貯金)の残高がほぼ底をついていることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	11	4.1
ある程度知っていた	34	12.7
あまり知らなかった	93	34.7
まったく知らなかった	128	47.8
無回答	2	0.7
合計	268	100.0



##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	45	16.8
知らなかった	221	82.5
無回答	2	0.7
合計	268	100.0

- 基金の残高がほぼ底をついていることについて、2分法による集計を見ると、約2割の回答者が「知っていた」と回答している。

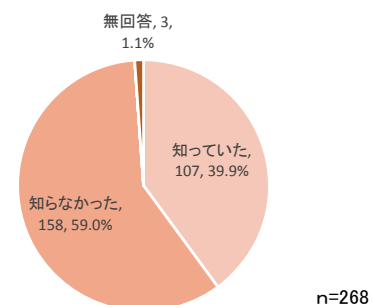
12

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果:観光客対応のために一部行政サービスが高コストである点について

問8 町では、年間約2,000万人観光客を受け入れるため、ごみ処理や消防・救急、下水道などにかかる支出が人口規模の割に多くなっていることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
よく知っていた	22	8.2
ある程度知っていた	85	31.7
あまり知らなかった	79	29.5
まったく知らなかった	79	29.5
無回答	3	1.1
合計	268	100.0



##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
知っていた	107	39.9
知らなかった	158	59.0
無回答	3	1.1
合計	268	100.0

- 観光客対応のために一部行政サービスが高コストである点について、2分法による集計を見ると、約4割の回答者が「知っていた」と回答している。

13

#### 4. 集計結果 ①単純集計結果:新たな負担の必要性への理解について

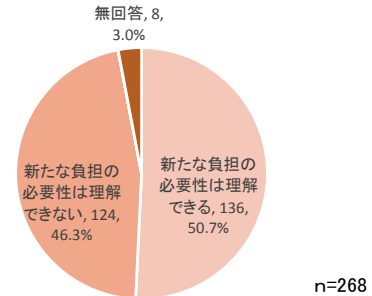
問9 町では、現在実施している事業を継続しつつ、将来を見据え必要である事業を着実に実施するため、今後、町民の皆さまに新たな負担をお願いすることも検討しています。これについて、あなたはどのようにお考えになりますか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果

	件数	割合
新たな負担の必要性は理解できる	18	6.7
新たな負担の必要性はある程度は理解できる	118	44.0
新たな負担の必要性はあまり理解できない	76	28.4
新たな負担の必要性はまったく理解できない	48	17.9
無回答	8	3.0
合計	268	100.0

##### 集計結果(2分法による再集計)

	件数	割合
新たな負担の必要性は理解できる	136	50.7
新たな負担の必要性は理解できない	124	46.3
無回答	8	3.0
合計	268	100.0



新たな負担の必要性への理解について、2分法による集計を見ると、「新たな負担の必要性は理解できる」とする回答者と、「新たな負担の必要性は理解できない」とする回答者の割合はそれぞれ約5割となっている。

#### 4. 集計結果 ②設問間クロス(問1～8×問9)集計結果

##### 町税収入の減少(問1)×(問9)

	新たな負担の必要性は理解できる	新たな負担の必要性は理解できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	63 48.5%	62 47.7%	5 3.8%	130 100.0%
知らなかった	73 53.3%	62 45.3%	2 1.5%	137 100.0%

##### 社会保障費の増加(問2)×(問9)

	新たな負担の必要性は理解できる	新たな負担の必要性は理解できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	63 50.4%	58 46.4%	4 3.2%	125 100.0%
知らなかった	73 51.4%	66 46.5%	3 2.1%	142 100.0%

##### 公債費の増加(問3)×(問9)

	新たな負担の必要性は理解できる	新たな負担の必要性は理解できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	27 45.0%	29 48.3%	4 6.7%	60 100.0%
知らなかった	109 52.7%	95 45.9%	3 1.4%	207 100.0%

##### 事務量の増加(問4)×(問9)

	新たな負担の必要性は理解できる	新たな負担の必要性は理解できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	38 54.3%	32 45.7%	0 0.0%	70 100.0%
知らなかった	98 49.7%	92 46.7%	7 3.6%	197 100.0%

問1～8と問9のクロス集計をかけることにより、財政状況の認知(問1～8)と新たな負担の必要性への理解(問9)の関係性について分析した。本ページと次ページの表では、縦軸に問1～8を、横軸に問9をとり集計している。

問1～問8については、それぞれの設問で「無回答」だった回答者についてのクロス集計結果の表記を省略している。そのため、縦方向の件数、割合の合計値が全体の件数、割合と一致しない。



#### 4. 集計結果 ②設問間クロス(問1～8×問9)集計結果

人件費の削減(問5)×(問9)

	新たな負担の 必要性は理解 できる	新たな負担の 必要性は理解 できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	36 55.4%	27 41.5%	2 3.1%	65 100.0%
知らなかった	100 49.8%	97 48.3%	4 2.0%	201 100.0%

社会インフラの維持のための経費削減(問6)×(問9)

	新たな負担の 必要性は理解 できる	新たな負担の 必要性は理解 できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	40 51.3%	35 44.9%	3 3.8%	78 100.0%
知らなかった	96 51.1%	89 47.3%	3 1.6%	188 100.0%

基金の残高状況(問7)×(問9)

	新たな負担の 必要性は理解 できる	新たな負担の 必要性は理解 できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	19 42.2%	22 48.9%	4 8.9%	45 100.0%
知らなかった	117 52.9%	102 46.2%	2 0.9%	221 100.0%

観光客対応のために一部行政サービスが高コストである  
点(問8)×(問9)

	新たな負担の 必要性は理解 できる	新たな負担の 必要性は理解 できない	無回答	合計
全体	136 50.7%	124 46.3%	8 3.0%	268 100.0%
知っていた	55 51.4%	49 45.8%	3 2.8%	107 100.0%
知らなかった	80 50.6%	75 47.5%	3 1.9%	158 100.0%

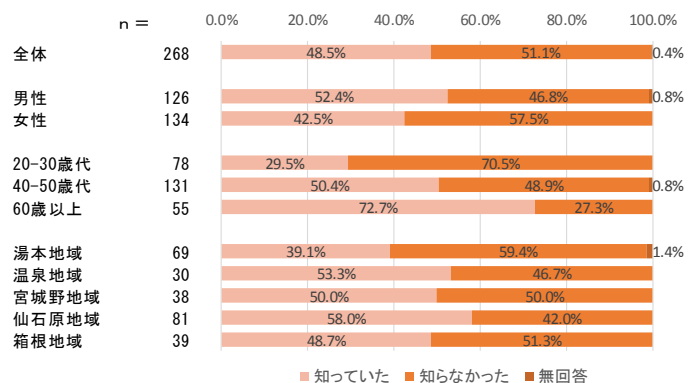
• 財政状況の認知(問1～8)について「知っていた」とする回答者、「知らなかった」とする回答者いずれも、新たな負担の必要性への理解(問9)は「理解できない」と回答する割合が概ね45%前後でほぼ同じ水準となっている。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果:町税収入の減少について

問1 町の町税収入が大幅に減少していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
全体	130 48.5%	137 51.1%	1 0.4%	268 100.0%
性別				
男性	66 52.4%	59 46.8%	1 0.8%	126 100.0%
女性	57 42.5%	77 57.5%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別				
20-30歳代	23 29.5%	55 70.5%	0 0.0%	78 100.0%
40-50歳代	66 50.4%	64 48.9%	1 0.8%	131 100.0%
60歳以上	40 72.7%	15 27.3%	0 0.0%	55 100.0%
地域別				
湯本地域	27 39.1%	41 59.4%	1 1.4%	69 100.0%
温泉地域	16 53.3%	14 46.7%	0 0.0%	30 100.0%
宮城野地域	19 50.0%	19 50.0%	0 0.0%	38 100.0%
仙石原地域	47 58.0%	34 42.0%	0 0.0%	81 100.0%
箱根地域	19 48.7%	20 51.3%	0 0.0%	39 100.0%



• 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性では約5割、女性では約4割となっている。

• 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約3割、40-50代では約5割、60歳以上では約7割となっている。

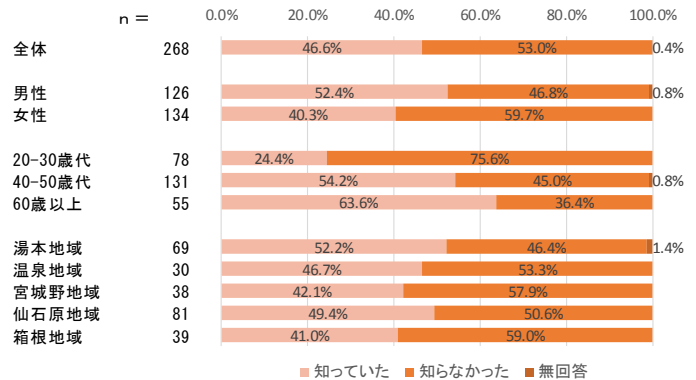
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果: 社会保障費の増加について

問2 町の社会保障費が大幅に増加していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
<b>全体</b>	125	142	1	268
	46.6%	53.0%	0.4%	100.0%
<b>性別</b>				
男性	66	59	1	126
	52.4%	46.8%	0.8%	100.0%
女性	54	80	0	134
	40.3%	59.7%	0.0%	100.0%
<b>年齢別</b>				
20-30歳代	19	59	0	78
	24.4%	75.6%	0.0%	100.0%
40-50歳代	71	59	1	131
	54.2%	45.0%	0.8%	100.0%
60歳以上	35	20	0	55
	63.6%	36.4%	0.0%	100.0%
<b>地域別</b>				
湯本地域	36	32	1	69
	52.2%	46.4%	1.4%	100.0%
温泉地域	14	16	0	30
	46.7%	53.3%	0.0%	100.0%
宮城野地域	16	22	0	38
	42.1%	57.9%	0.0%	100.0%
仙石原地域	40	41	0	81
	49.4%	50.6%	0.0%	100.0%
箱根地域	16	23	0	39
	41.0%	59.0%	0.0%	100.0%



- 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性では約5割、女性では約4割となっている。
- 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約2割、40-50代では約5割、60歳以上では約6割となっている。

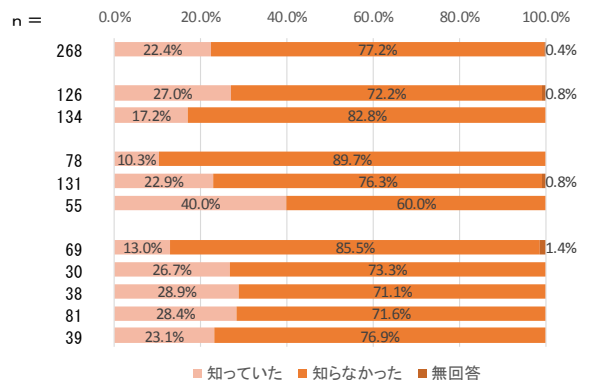
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果: 公債費の増加について

問3 町の公債費(借入金返済)が大幅に増加していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
<b>全体</b>	60	207	1	268
	22.4%	77.2%	0.4%	100.0%
<b>性別</b>				
男性	34	91	1	126
	27.0%	72.2%	0.8%	100.0%
女性	23	111	0	134
	17.2%	82.8%	0.0%	100.0%
<b>年齢別</b>				
20-30歳代	8	70	0	78
	10.3%	89.7%	0.0%	100.0%
40-50歳代	30	100	1	131
	22.9%	76.3%	0.8%	100.0%
60歳以上	22	33	0	55
	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
<b>地域別</b>				
湯本地域	9	59	1	69
	13.0%	85.5%	1.4%	100.0%
温泉地域	8	22	0	30
	26.7%	73.3%	0.0%	100.0%
宮城野地域	11	27	0	38
	28.9%	71.1%	0.0%	100.0%
仙石原地域	23	58	0	81
	28.4%	71.6%	0.0%	100.0%
箱根地域	9	30	0	39
	23.1%	76.9%	0.0%	100.0%



- 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性では約3割、女性では約2割となっている。
- 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約1割、40-50代では約2割、60歳以上では4割となっている。

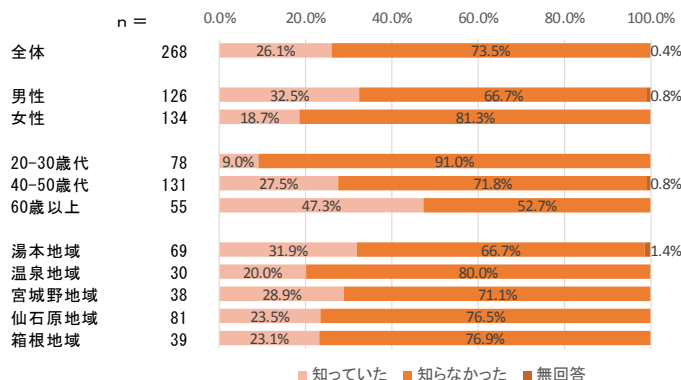
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果:事務量の増加について

問4 町では介護保険などの制度改正や権限移譲などにより事務量が増加していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
<b>全体</b>	70	197	1	268
	26.1%	73.5%	0.4%	100.0%
<b>性別</b>				
男性	41	84	1	126
	32.5%	66.7%	0.8%	100.0%
女性	25	109	0	134
	18.7%	81.3%	0.0%	100.0%
<b>年齢別</b>				
20-30歳代	7	71	0	78
	9.0%	91.0%	0.0%	100.0%
40-50歳代	36	94	1	131
	27.5%	71.8%	0.8%	100.0%
60歳以上	26	29	0	55
	47.3%	52.7%	0.0%	100.0%
<b>地域別</b>				
湯本地域	22	46	1	69
	31.9%	66.7%	1.4%	100.0%
温泉地域	6	24	0	30
	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
宮城野地域	11	27	0	38
	28.9%	71.1%	0.0%	100.0%
仙石原地域	19	62	0	81
	23.5%	76.5%	0.0%	100.0%
箱根地域	9	30	0	39
	23.1%	76.9%	0.0%	100.0%



- 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性では約3割、女性では約2割となっている。
- 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約1割、40-50代では約3割、60歳以上では約5割となっている。

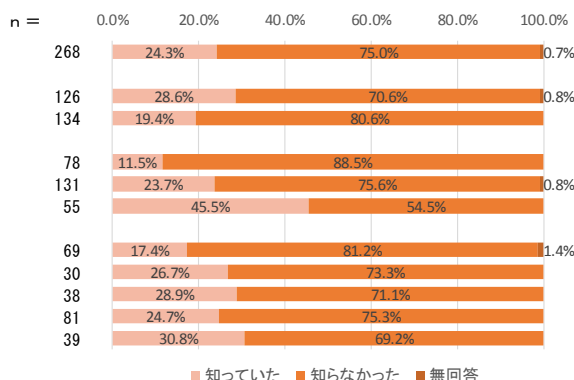
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果:人件費の削減について

問5 町では10年以上にわたり人件費を削減してきていることをご存知でしたか。

##### 集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
<b>全体</b>	65	201	2	268
	24.3%	75.0%	0.7%	100.0%
<b>性別</b>				
男性	36	89	1	126
	28.6%	70.6%	0.8%	100.0%
女性	26	108	0	134
	19.4%	80.6%	0.0%	100.0%
<b>年齢別</b>				
20-30歳代	9	69	0	78
	11.5%	88.5%	0.0%	100.0%
40-50歳代	31	99	1	131
	23.7%	75.6%	0.8%	100.0%
60歳以上	25	30	0	55
	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
<b>地域別</b>				
湯本地域	12	56	1	69
	17.4%	81.2%	1.4%	100.0%
温泉地域	8	22	0	30
	26.7%	73.3%	0.0%	100.0%
宮城野地域	11	27	0	38
	28.9%	71.1%	0.0%	100.0%
仙石原地域	20	61	0	81
	24.7%	75.3%	0.0%	100.0%
箱根地域	12	27	0	39
	30.8%	69.2%	0.0%	100.0%



- 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性では約3割、女性では約2割となっている。
- 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約1割、40-50代では約2割、60歳以上では約5割となっている。

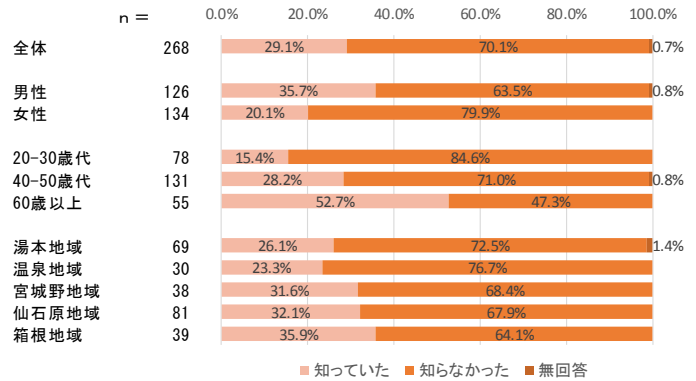
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果:社会インフラの維持のための経費削減について

問6 町では建物や道路等の社会インフラの老朽化が進んでいるにもかかわらず、その維持のための経費を削減していることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
全体	78	188	2	268
	29.1%	70.1%	0.7%	100.0%
性別				
男性	45	80	1	126
	35.7%	63.5%	0.8%	100.0%
女性	27	107	0	134
	20.1%	79.9%	0.0%	100.0%
年齢別				
20-30歳代	12	66	0	78
	15.4%	84.6%	0.0%	100.0%
40-50歳代	37	93	1	131
	28.2%	71.0%	0.8%	100.0%
60歳以上	29	26	0	55
	52.7%	47.3%	0.0%	100.0%
地域別				
湯本地域	18	50	1	69
	26.1%	72.5%	1.4%	100.0%
温泉地域	7	23	0	30
	23.3%	76.7%	0.0%	100.0%
宮城野地域	12	26	0	38
	31.6%	68.4%	0.0%	100.0%
仙石原地域	26	55	0	81
	32.1%	67.9%	0.0%	100.0%
箱根地域	14	25	0	39
	35.9%	64.1%	0.0%	100.0%



- 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性では約4割、女性では約2割となっている。
- 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約2割、40-50代では約3割、60歳以上では約5割となっている。

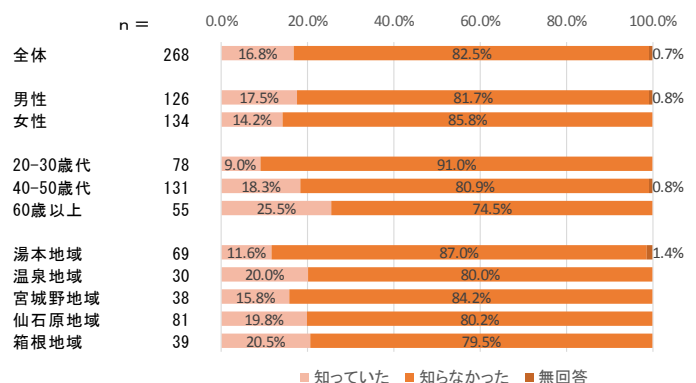
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果:基金の残高状況について

問7 町の基金(貯金)の残高がほぼ底をついていることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
全体	45	221	2	268
	16.8%	82.5%	0.7%	100.0%
性別				
男性	22	103	1	126
	17.5%	81.7%	0.8%	100.0%
女性	19	115	0	134
	14.2%	85.8%	0.0%	100.0%
年齢別				
20-30歳代	7	71	0	78
	9.0%	91.0%	0.0%	100.0%
40-50歳代	24	106	1	131
	18.3%	80.9%	0.8%	100.0%
60歳以上	14	41	0	55
	25.5%	74.5%	0.0%	100.0%
地域別				
湯本地域	8	60	1	69
	11.6%	87.0%	1.4%	100.0%
温泉地域	6	24	0	30
	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
宮城野地域	6	32	0	38
	15.8%	84.2%	0.0%	100.0%
仙石原地域	16	65	0	81
	19.8%	80.2%	0.0%	100.0%
箱根地域	8	31	0	39
	20.5%	79.5%	0.0%	100.0%



- 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性、女性ともに15%前後となっている。
- 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約1割、40-50代では約2割、60歳以上では約3割となっている。

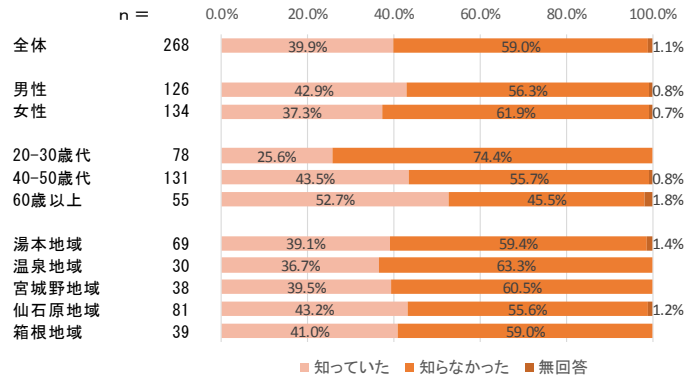
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果：観光客対応のために一部行政サービスが高コストである点について

問8 町では、年間約2,000万人観光客を受け入れるため、ごみ処理や消防・救急、下水道などにかかる支出が人口規模の割に多くなっていることをご存知でしたか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果(2分法による再集計)

	知っていた	知らなかった	無回答	全体
<b>全体</b>	107	158	3	268
	39.9%	59.0%	1.1%	100.0%
<b>性別</b>				
男性	54	71	1	126
	42.9%	56.3%	0.8%	100.0%
女性	50	83	1	134
	37.3%	61.9%	0.7%	100.0%
<b>年齢別</b>				
20-30歳代	20	58	0	78
	25.6%	74.4%	0.0%	100.0%
40-50歳代	57	73	1	131
	43.5%	55.7%	0.8%	100.0%
60歳以上	29	25	1	55
	52.7%	45.5%	1.8%	100.0%
<b>地域別</b>				
湯本地域	27	41	1	69
	39.1%	59.4%	1.4%	100.0%
温泉地域	11	19	0	30
	36.7%	63.3%	0.0%	100.0%
宮城野地域	15	23	0	38
	39.5%	60.5%	0.0%	100.0%
仙石原地域	35	45	1	81
	43.2%	55.6%	1.2%	100.0%
箱根地域	16	23	0	39
	41.0%	59.0%	0.0%	100.0%



- 性別で見ると、「知っていた」とする回答者は、男性、女性ともに約4割となっている。
- 年齢別で見ると、「知っていた」とする回答者は、20-30歳代では約3割、40-50代では約4割、60歳以上では約5割となっている。

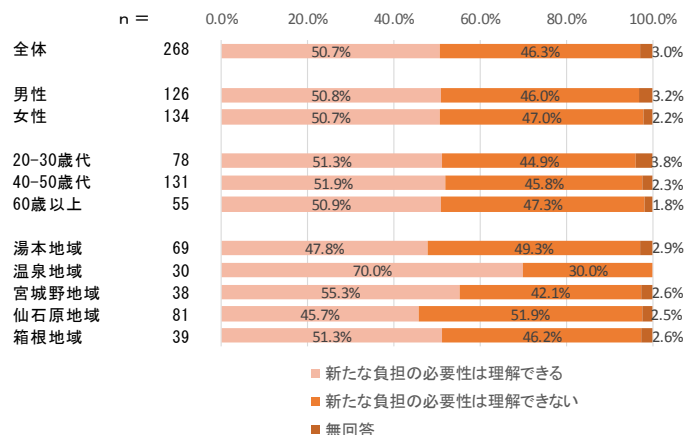
注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

#### 4. 集計結果 ③属性クロス集計結果：新たな負担の必要性への理解について

問9 町では、現在実施している事業を継続しつつ、将来を見据え必要である事業を着実に実施するため、今後、町民の皆さまに新たな負担をお願いすることも検討しています。これについて、あなたはどのようにお考えになりますか。(いずれか1つに○をつけてください)

##### 集計結果(2分法による再集計)

	新たな負担の必要性は理解できる	新たな負担の必要性は理解できない	無回答	全体
<b>全体</b>	136	124	8	268
	50.7%	46.3%	3.0%	100.0%
<b>性別</b>				
男性	64	58	4	126
	50.8%	46.0%	3.2%	100.0%
女性	68	63	3	134
	50.7%	47.0%	2.2%	100.0%
<b>年齢別</b>				
20-30歳代	40	35	3	78
	51.3%	44.9%	3.8%	100.0%
40-50歳代	68	60	3	131
	51.9%	45.8%	2.3%	100.0%
60歳以上	28	26	1	55
	50.9%	47.3%	1.8%	100.0%
<b>地域別</b>				
湯本地域	33	34	2	69
	47.8%	49.3%	2.9%	100.0%
温泉地域	21	9	0	30
	70.0%	30.0%	0.0%	100.0%
宮城野地域	21	16	1	38
	55.3%	42.1%	2.6%	100.0%
仙石原地域	37	42	2	81
	45.7%	51.9%	2.5%	100.0%
箱根地域	20	18	1	39
	51.3%	46.2%	2.6%	100.0%



- 性別で見ると、男性、女性ともに「新たな負担は理解できる」「新たな負担は理解できない」とする回答者は、それぞれ約5割となっている。
- 年齢別で見ると、どの年齢区分でも、「新たな負担は理解できる」とする回答者の割合は約5割となっている。

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 4. 集計結果 ④問1～9に関するまとめ

### ①単純集計結果

#### 町の財政状況の認知(問1～8)

- 回答者の5割以上が「知っていた」とする選択肢はなかった。
- 町税収入の減少(問1)や社会保障費の増加(問2)、観光客対応のために一部行政サービスが高コストである点(問8)については、他の財政状況に関する質問に比べて「知っていた」とする回答者の割合が高く、その割合は4～5割となっている。
- 一方、公債費の増加(問3)、事務量の増加(問4)、人件費の削減(問5)、社会インフラ維持のための経費削減(問6)、基金の残高状況(問7)については、「知っていた」とする回答者の割合は2～3割にとどまる。

#### 新たな負担の必要性への理解(問9)

- 「新たな負担の必要性は理解できる」とする回答者と、「新たな負担の必要性は理解できない」とする回答者の割合はそれぞれ約5割と拮抗している。

### ②設問間クロス(問1～8×問9)集計結果

#### 財政状況の認知(問1～8)と新たな負担の必要性への理解(問9)の関係性について

- 財政状況の認知について「知っていた」か「知らなかった」かの違いによって、新たな負担の必要性への理解に大きな差は見られなかった。

### ③属性クロス集計結果

#### 町の財政状況の認知(問1～8)

- いずれの設問においても、総じて、女性よりも男性の方が「知っていた」とする回答者の割合が高く、年齢区分が高くなるにつれて「知っていた」とする回答者の割合が高くなっている。
- ただし、設問によっては割合の差が小さいものもある。

#### 新たな負担の必要性への理解(問9)

- 性別・年齢区分による回答傾向の違いは見られなかった。

26

## 4. 集計結果 ⑤自由記述:分類別回答件数

### ●分類別回答件数

No.	質問・提案・感想の区分	質問・提案・感想数			
		質問	提案	感想	
1	財政逼迫	7	1	5	1
2	財政推計	0	0	0	0
3	歳入確保	35	0	35	0
4	歳出削減	16	0	16	0
5	人件費(職員削減)	30	1	29	0
6	公共施設	30	0	30	0
7	温泉幼稚園・宮城野保育園	6	1	5	0
8	総合計画	0	0	0	0
9	人口減対策	22	1	21	0
10	町の仕事のやり方	36	1	35	0
11	議員に関すること	30	0	30	0
12	町民への説明	10	0	10	0
13	新たな取組について	40	0	40	0
14	その他	48	2	43	3
計		310	7	299	4

- 7月期財政状況説明会の説明結果(総括表)(平成27年7月27日作成)における質問・提案と回答の分類別に合わせて、自由記述を分類・集計した。
- 有効回収数268のうち自由記述欄への記入のあったものは147となっている。なお、この集計においては、一人の回答者が複数の分類について記述していた場合、それぞれの分類毎に「1件」と計上したため、合計件数は、自由記述の記述者数を上回っている。
- 自由記述の回答を、質問・提案・感想数の多い順に見ると、最も多いのは「新たな取組について」が40件、次いで「町の仕事のやり方」が36件、「歳入確保」が35件、となっている。

27

## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問1 町税収入の減少について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	33 12.3%	97 36.2%	71 26.5%	66 24.6%	1 0.4%	268 100.0%	
性別	男性	20 15.9%	46 36.5%	35 27.8%	24 19.0%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	11 8.2%	46 34.3%	36 26.9%	41 30.6%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別	20歳代	1 3.8%	2 7.7%	9 34.6%	14 53.8%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	6 11.5%	14 26.9%	11 21.2%	21 40.4%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	5 10.6%	16 34.0%	12 25.5%	13 27.7%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	9 10.7%	36 42.9%	25 29.8%	14 16.7%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	7 21.2%	16 48.5%	8 24.2%	2 6.1%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	5 22.7%	12 54.5%	4 18.2%	1 4.5%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	6 8.7%	21 30.4%	22 31.9%	19 27.5%	1 1.4%
温泉地域	6 20.0%	10 33.3%	5 16.7%	9 30.0%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	6 15.8%	13 34.2%	8 21.1%	11 28.9%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	11 13.6%	36 44.4%	20 24.7%	14 17.3%	0 0.0%	81 100.0%	
箱根地域	4 10.3%	15 38.5%	12 30.8%	8 20.5%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 5. 参考資料1 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問2 社会保障費の増加について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	24 9.0%	101 37.7%	76 28.4%	66 24.6%	1 0.4%	268 100.0%	
性別	男性	18 14.3%	48 38.1%	35 27.8%	24 19.0%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	6 4.5%	48 35.8%	39 29.1%	41 30.6%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別	20歳代	1 3.8%	3 11.5%	5 19.2%	17 65.4%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	6 11.5%	9 17.3%	15 28.8%	22 42.3%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	3 6.4%	20 42.6%	14 29.8%	9 19.1%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	9 10.7%	39 46.4%	22 26.2%	14 16.7%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	4 12.1%	17 51.5%	12 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	1 4.5%	13 59.1%	6 27.3%	2 9.1%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	4 5.8%	32 46.4%	18 26.1%	14 20.3%	1 1.4%
温泉地域	3 10.0%	11 36.7%	7 23.3%	9 30.0%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	5 13.2%	11 28.9%	10 26.3%	12 31.6%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	8 9.9%	32 39.5%	23 28.4%	18 22.2%	0 0.0%	81 100.0%	
箱根地域	4 10.3%	12 30.8%	12 30.8%	11 28.2%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問3 公債費の増加について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	13 4.9%	47 17.5%	111 41.4%	96 35.8%	1 0.4%	268 100.0%	
性別	男性	9 7.1%	25 19.8%	50 39.7%	41 32.5%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	3 2.2%	20 14.9%	57 42.5%	54 40.3%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別	20歳代	1 3.8%	1 3.8%	8 30.8%	16 61.5%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	2 3.8%	4 7.7%	18 34.6%	28 53.8%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	1 2.1%	11 23.4%	20 42.6%	14 29.8%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	4 4.8%	14 16.7%	38 45.2%	28 33.3%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	4 12.1%	10 30.3%	16 48.5%	3 9.1%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	1 4.5%	7 31.8%	10 45.5%	4 18.2%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	2 2.9%	7 10.1%	38 55.1%	21 30.4%	1 1.4%
温泉地域	2 6.7%	6 20.0%	10 33.3%	12 40.0%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	3 7.9%	8 21.1%	12 31.6%	15 39.5%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	5 6.2%	18 22.2%	31 38.3%	27 33.3%	0 0.0%	81 100.0%	
箱根地域	1 2.6%	8 20.5%	14 35.9%	16 41.0%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問4 事務量の増加について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	15 5.6%	55 20.5%	103 38.4%	94 35.1%	1 0.4%	268 100.0%	
性別	男性	10 7.9%	31 24.6%	45 35.7%	39 31.0%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	4 3.0%	21 15.7%	55 41.0%	54 40.3%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別	20歳代	1 3.8%	1 3.8%	6 23.1%	18 69.2%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	2 3.8%	3 5.8%	16 30.8%	31 59.6%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	1 2.1%	12 25.5%	20 42.6%	13 27.7%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	4 4.8%	19 22.6%	36 42.9%	25 29.8%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	4 12.1%	12 36.4%	15 45.5%	2 6.1%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	3 13.6%	7 31.8%	9 40.9%	3 13.6%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	3 4.3%	19 27.5%	22 31.9%	24 34.8%	1 1.4%
温泉地域	0 0.0%	6 20.0%	12 40.0%	12 40.0%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	3 7.9%	8 21.1%	14 36.8%	13 34.2%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	4 4.9%	15 18.5%	35 43.2%	27 33.3%	0 0.0%	81 100.0%	
箱根地域	4 10.3%	5 12.8%	15 38.5%	15 38.5%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。



## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問5 人件費の削減について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	11 4.1%	54 20.1%	103 38.4%	98 36.6%	2 0.7%	268 100.0%	
性別	男性	8 6.3%	28 22.2%	50 39.7%	39 31.0%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	2 1.5%	24 17.9%	50 37.3%	58 43.3%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別	20歳代	0 0.0%	2 7.7%	8 30.8%	16 61.5%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	2 3.8%	5 9.6%	14 26.9%	31 59.6%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	1 2.1%	9 19.1%	19 40.4%	17 36.2%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	3 3.6%	18 21.4%	36 42.9%	27 32.1%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	4 12.1%	10 30.3%	15 45.5%	4 12.1%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	1 4.5%	10 45.5%	9 40.9%	2 9.1%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	1 1.4%	11 15.9%	22 31.9%	34 49.3%	1 1.4%
温泉地域	0 0.0%	8 26.7%	7 23.3%	15 50.0%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	3 7.9%	8 21.1%	14 36.8%	13 34.2%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	5 6.2%	15 18.5%	43 53.1%	18 22.2%	0 0.0%	81 100.0%	
箱根地域	2 5.1%	10 25.6%	14 35.9%	13 33.3%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問6 社会インフラの維持のための経費削減について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	19 7.1%	59 22.0%	99 36.9%	89 33.2%	2 0.7%	268 100.0%	
性別	男性	10 7.9%	35 27.8%	42 33.3%	38 30.2%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	7 5.2%	20 14.9%	56 41.8%	51 38.1%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別	20歳代	1 3.8%	2 7.7%	9 34.6%	14 53.8%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	1 1.9%	8 15.4%	12 23.1%	31 59.6%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	3 6.4%	13 27.7%	14 29.8%	16 34.0%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	4 4.8%	17 20.2%	37 44.0%	26 31.0%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	6 18.2%	11 33.3%	15 45.5%	1 3.0%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	4 18.2%	8 36.4%	9 40.9%	1 4.5%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	3 4.3%	15 21.7%	22 31.9%	28 40.6%	1 1.4%
温泉地域	2 6.7%	5 16.7%	11 36.7%	12 40.0%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	2 5.3%	10 26.3%	12 31.6%	14 36.8%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	11 13.6%	15 18.5%	34 42.0%	21 25.9%	0 0.0%	81 100.0%	
箱根地域	1 2.6%	13 33.3%	15 38.5%	10 25.6%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問7 基金の残高状況について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	11 4.1%	34 12.7%	93 34.7%	128 47.8%	2 0.7%	268 100.0%	
性別	男性	6 4.8%	16 12.7%	45 35.7%	58 46.0%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	4 3.0%	15 11.2%	45 33.6%	70 52.2%	0 0.0%	134 100.0%
年齢別	20歳代	1 3.8%	1 3.8%	6 23.1%	18 69.2%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	2 3.8%	3 5.8%	12 23.1%	35 67.3%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	2 4.3%	8 17.0%	18 38.3%	18 38.3%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	2 2.4%	12 14.3%	29 34.5%	41 48.8%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	3 9.1%	7 21.2%	14 42.4%	9 27.3%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	1 4.5%	3 13.6%	11 50.0%	7 31.8%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	3 4.3%	5 7.2%	22 31.9%	38 55.1%	1 1.4%
温泉地域	1 3.3%	5 16.7%	10 33.3%	14 46.7%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	3 7.9%	3 7.9%	15 39.5%	17 44.7%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	3 3.7%	13 16.0%	30 37.0%	35 43.2%	0 0.0%	81 100.0%	
箱根地域	1 2.6%	7 17.9%	11 28.2%	20 51.3%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問8 観光客対応のために一部行政サービスが高コストである点について)

### 集計結果

	よく知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	まったく知らなかった	無回答	全体	
全体	22 8.2%	85 31.7%	79 29.5%	79 29.5%	3 1.1%	268 100.0%	
性別	男性	13 10.3%	41 32.5%	38 30.2%	33 26.2%	1 0.8%	126 100.0%
	女性	8 6.0%	42 31.3%	37 27.6%	46 34.3%	1 0.7%	134 100.0%
年齢別	20歳代	1 3.8%	4 15.4%	10 38.5%	11 42.3%	0 0.0%	26 100.0%
	30歳代	3 5.8%	12 23.1%	13 25.0%	24 46.2%	0 0.0%	52 100.0%
	40歳代	1 2.1%	18 38.3%	13 27.7%	14 29.8%	1 2.1%	47 100.0%
	50歳代	13 15.5%	25 29.8%	24 28.6%	22 26.2%	0 0.0%	84 100.0%
	60歳代	2 6.1%	15 45.5%	12 36.4%	4 12.1%	0 0.0%	33 100.0%
	70歳以上	2 9.1%	10 45.5%	6 27.3%	3 13.6%	1 4.5%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	6 8.7%	21 30.4%	16 23.2%	25 36.2%	1 1.4%
温泉地域	1 3.3%	10 33.3%	8 26.7%	11 36.7%	0 0.0%	30 100.0%	
宮城野地域	4 10.5%	11 28.9%	14 36.8%	9 23.7%	0 0.0%	38 100.0%	
仙石原地域	9 11.1%	26 32.1%	24 29.6%	21 25.9%	1 1.2%	81 100.0%	
箱根地域	2 5.1%	14 35.9%	13 33.3%	10 25.6%	0 0.0%	39 100.0%	

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 5. 参考資料1 属性クロス集計結果詳細表(問9 新たな負担の必要性への理解について)

### 集計結果

	新たな負担の 必要性は 理解できる	新たな負担の 必要性はある程度は 理解できる	新たな負担の 必要性はあまり 理解できない	新たな負担の 必要性はまったく 理解できない	無回答	全体	
全体	18 6.7%	118 44.0%	76 28.4%	48 17.9%	8 3.0%	268 100.0%	
性別	男性	9 7.1%	55 43.7%	30 23.8%	28 22.2%	4 3.2%	126 100.0%
	女性	8 6.0%	60 44.8%	44 32.8%	19 14.2%	3 2.2%	134 100.0%
年齢別	20歳代	2 7.7%	15 57.7%	4 15.4%	4 15.4%	1 3.8%	26 100.0%
	30歳代	6 11.5%	17 32.7%	16 30.8%	11 21.2%	2 3.8%	52 100.0%
	40歳代	3 6.4%	17 36.2%	16 34.0%	9 19.1%	2 4.3%	47 100.0%
	50歳代	5 6.0%	43 51.2%	21 25.0%	14 16.7%	1 1.2%	84 100.0%
	60歳代	0 0.0%	14 42.4%	14 42.4%	4 12.1%	1 3.0%	33 100.0%
	70歳以上	2 9.1%	12 54.5%	4 18.2%	4 18.2%	0 0.0%	22 100.0%
	地域別	湯本地域	6 8.7%	27 39.1%	21 30.4%	13 18.8%	2 2.9%
	温泉地域	2 6.7%	19 63.3%	6 20.0%	3 10.0%	0 0.0%	30 100.0%
	宮城野地域	1 2.6%	20 52.6%	10 26.3%	6 15.8%	1 2.6%	38 100.0%
	仙石原地域	6 7.4%	31 38.3%	27 33.3%	15 18.5%	2 2.5%	81 100.0%
	箱根地域	3 7.7%	17 43.6%	10 25.6%	8 20.5%	1 2.6%	39 100.0%

注:それぞれの属性で「無回答」の回答者については結果の表記を省略しているため、縦方向の件数、割合の合計値は全体の件数、割合と一致しない。

## 参考資料2 自由記述回答結果等

No.	記述
1	他市町村への人口流出を食い止めるためにも子育て支援や通学補助の予算を確保してください。
2	自治会・消防団等意味のない飲み会などが多すぎる。自治会などへの給付金をもっと減らし、ボランティア精神でやるべきです。町会議員の定数、給与共に減らすこと。生活保護費のきちんとした見直し。
3	有効に利用されている様子のない体育館（レイクアリーナ）は、今後の維持費を考えると解体する事がベストと思うが如何。ほとんど知らなかった事項が多く、もう少し周知した方が宜しいかも。
4	新たな負担を町民に課す事より他の地域への移動を促す事になりかねないのではないのでしょうか？一般の事業所でも施設ごとに努力している状況も知るべきではないのでしょうか？
5	一刻も早く現状の情報発信をしてください。（公的に）安定した収入を得られる入湯税であれば少し上げてよいのではないのでしょうか？150円→200円均一 他にも同じような状況になっている市町村はあるはず。知恵をおかりすればいいのではないのでしょうか？
6	箱根に住んで不便なことも多いのに町税の負担が増えたら箱根に住みたくないという気持ちになります。
7	町の財政が逼迫していると言いながら宮城野の保育園の建て直しを次年度計画し数億円の金額を使用することは考えられない事である。財政再建の目処が立つ迄、既存の施設を利用するなどの方策が考えられないのだろうか。温泉幼稚園の改善により、中央幼児学園構想を復活させられないのか（建築費用より改築計画の方が費用が軽減されるだろう！）この件だけはぜひご一考をお願いしたい。
8	箱根山の噴火により、観光収入が激減していると思う。北海道やスイスの姉妹都市に協力してもらおう。←すみません。9月に行うんですね…。書いたあとに気づきました…。
9	人件費は削減していませんよね。ただ単に定年で退職した人をカウントしているだけです。無能な人たちを雇っていると思います。無駄（議員歳費等）を減らしてから新しい税を作ってください。こんなアンケートで説明責任を果たしたなどと言わないでください。
10	①人件費の削減等。 ②専門家に相談 コンサルティングする。
11	もっと早く行動をすべきではなかったかと思います。情報の公開方法をホームページなどでいわずにだれでもわかり理解出来るようにしたら良いのではないか！町民負担以外の税収や誘致などしてその他の収入の模索も必要かと思う！
12	これだけの分析が出来る人材の箱根町ならば、良い知恵・良い方向へ進むことを期待しています。
13	月1,000円位の負担増なら許せる。町にお金がないという事は個人も今お金がないんです。きついです。箱根で働く人も小田原、三島に住んでいる。箱根に住んでいる人を雇うよう企業にすすめる。元気な年よりがたくさんいる。少しでも働いてもらえばいい。
14	人件費について疑問があるのですが？表で見るとかなり抑制されているように見えますが、例えば平成7年度、職員数487人に対して32億、平均年収約657万円、平成25年度、職員数386人に対して29.1億、平均年収約753万円、平均年収は100万近く上がってますが、どこを抑えているのでしょうか？高齢の職員が増えているのも分かりますが、他自治体と比較するのはなく箱根町としてどうなのでしょう？とにかくこの表は見せかたに問題があると思いますので平均年収を付けるなり改善して下さい。
15	町の人口が減る現状、この町の魅力がなんにもない。若者が東京へ流出するのもわかる。町会議員が悪い。視察が多く、結果に現れてない。不用のアンケートに金を使うな！
16	※人件費削減しても住所が町内でなければ町民税は増えないですね。多少でも町の税収 ※子育て支援、30代、40代町外に転出しなくて逆に町に転入してくれる様な政策なんかいいよね。箱根にしてほしいですね。住民の暮らしを守るために。 ※町議員と職員の方々は町内を回っているのかな？歩道に草がのびていて歩けないじゃ観光業なのに おもてなし対応？
17	・使用頻度の少ない公共施設が多い（レイクアリーナなど）。民間への譲渡などを検討。 ・町会議員定数↓など*今回の説明で状況はある程度分かったが、なぜこのような状況になったのかは良くわからない。新たな負担を強いるなら、もっと根本的な対応を指すべきではないか。若い人がなおさら減ってしまうと思う。

No.	記述
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光事業に依存しない。</li> <li>・猪の駆除していますが、名産にしてみてもは。</li> <li>・働きやすい環境作り。</li> </ul>
19	<p>役場で働く人間を箱根町在住の人を主に採用し、他市町村は少なくすればまずは税金が払われるのでは?! 現況は給料は払っても在住でなければ税金は入らないから支出のみなのは?!</p>
20	<p>町として観光客の呼びこみや、催し物等の積極的に行なっているのかどうかあまり感じられない。箱根の町おこしの必要なものがあるのではないかと。せつかく小田急線があるのだから新宿で宣伝等も行なってもよいのでは。他県の宣伝は新宿駅でよく見受けられますが。</p>
21	<p>町民に新たな負担を求める事になれば、益々町民が減っていく事も考えられます。衣食住に関わる生活必需品から医療まで、となりの小田原市へ行かなければ成立しない環境にあつてこの町に住む理由が見つかりません。多くの温泉を持つ町を訪れると、リハビリ温泉施設や老人ホームなどが次々に設立されているのを目にします。箱根の唯一最大の売りは「温泉」なのですし、これからは高齢者を対象にした施設は益々必要とされる事と思います。住民から徴収するばかりでなく、「お金を生む」事を考えていく事が必要なのではないでしょうか? 箱根は日本のブランドです。そのブランド力は色々な使い道があると思います。</p>
22	<p>このアンケート自体に費用がかかってムダになっていませんか? 消滅危険市町村の上位に入っているのを町として危機感を持って取り組んでいますか? 若い人が住みやすい町づくりの努力はしていますか? 観光しか考えずに何十年もやってきた結果が現状でしょう。火山のことでどれだけ批判されているかわかっていますか? 企業を誘致したり、成功している市町村を見習うべきです。観光しか考えずやってきた為、若い人も老人も住みづらい町になってしまっています。削る、住民から回収する。ではなく、収入を増やすための努力をすべきでは? 期待していませんが。</p>
23	<p>ふるさと納税で品物の良い所は税金がかなり良くなっていると聞きます。ここは都心にも近いので、箱根山はいま大変なことになっていますが、納税の目玉を見つければそちらの方で少しですが、良くなってくると思います。(例 箱根町どこでも使える特待券や名物でも箱根しかないおいしい食品など考えて下さい。</p>
24	<p>町の財政の厳しさに驚きました。観光客が多く訪れ続けていますし、世界的にも有名な日本の観光地で豊かなイメージがありました。不便ですので、自然は豊かで空気はいいですが、人口を増やすことは大変だろうと感じます。箱根山の火山活動もありますし。</p>
25	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職員の給与が企業数の多い厚木市や観光都市鎌倉市より多いことには不満。現在の水準そのものが民間企業より高い。給料を下げてやりたい人は多数いる。</li> <li>2. 無駄な道路工事が多すぎる。時期によっては、3から4か所でも同じような場所で工事。仙石原の道路には穴だらけ+路肩がかなりくずれている。</li> <li>3. 老人への過剰な手当ては大幅に減少すべき。老人への投資は無駄である。</li> <li>4. 元気な老人を使い(参加してもらい)費用を下げることを考えて欲しい。</li> <li>5. 町役場がなぜあれほど立地のいいところにあるのか? 移転すべき。</li> </ol>
26	<p>箱根に居を構えたころから町は神奈川県内の他の市町村より富裕町であると聞いてました。新設された特定政策推進室の職員の方ご健闘を祈ります。</p>
27	<p>現状でお金が足りないのに新たに宮城野保育園改築というのはお金のムダ使いだと思います。そうでなくとも、園児数減少なのに温泉小の利用はできないのですか? 削れるところは削って頂きたいです。負担が増えるのは困ります。</p>
28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱物(さくら館、レイクアリーナ)の転用・学校の統合(残りを民間に貸し出す)</li> <li>・職員の住所はすべて町に移す(町に在住のみ職員に)</li> <li>・町議の削減(給料も)町長は3期まで</li> </ul>
29	<p>ムダな施設が多すぎる。あまり必要性の無い物に金をかけすぎだと思ふ。一部の人しか使わない所に金をかけて税金のムダ使い。税金ばかり上げて町民の生活が苦しくなるから人口が減る、負のスパイラルになっている。若い世代にも住みやすい町にならないと高齢者しか残らない。子供も少ないまま。もっと税金の使い道を考えてほしい。大涌谷の影響で仕事が減っている今、これ以上の負担は生活困難をまねくだけ。それより、“エヴァンゲリオン”とかファンが必ず来るようなイベントでも考えて、ターゲットをしぼった宣伝でもしたほうが集客につながると思う。「エヴァの聖地」として箱根にしかできない事をするべき。</p>
30	<p>町議会議員の定数削減、総数十名。レイクアリーナの活用の促進。</p>

No.	記述
31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地熱発電。</li> <li>・特産物、名産物を都会の繁華街でイベント出店する町おこし活動。</li> <li>・ふるさと納税。</li> <li>・B-1グランプリやコスプレイベントなどへのもっと定期的な会場提供。</li> <li>・町の行事などのツイッター発信。</li> </ul>
32	問9のことはあまりよく理解できません。町民の他に、取るべき所は近くにあるのでは。
33	特に箱根はカーブが多く、車が溝にはまって動けなくなっているのを見かけるので改善していただけたらありがたいです。あと、濃霧でよく見えなくて、白線・黄色線が薄くて、民家の敷地に入りそうになったりと、ヒヤッとすることが多々あるので、こちらも改善していただけたらありがたいです。
34	職員数を減らすべきです。人が多すぎる。その職員も小田原等、他の地域から来ている人が多いと言われています。税収的にも地域の理解のためにも地元の人間を雇うべきです。甘酒茶屋の隣りにある資料館の展示品を関所資料館か湯本郷土資料館に持っていくべきです。その資料館を廃止することで維持費がかからなくなり、又、資料を安全に多くの人に見てもらえます。
35	民間企業であれば、もっと人件費を削減している。町会議員などもっと減らしても良いのでは？
36	台ヶ岳ススキの原の駐車場、トイレを有料にするべき。ガードマン代、トイレ代を町民の税金で負担している。なぜ料金を取らないのか、めんどうなのですか？（増収になると思います）レイクアリーナの赤字はどう考えるか（壊した方が良くかと思えます）。
37	公共施設の廃止等、まだまだ削減できる所は、いくらでもあるはず。
38	人件費のことを問題にする以前に、レイクアリーナには何もしないで机に向かって事務員が6人前後常におり、これらの老人に支払われる給与のことを考えると、町の採用、人事がいかに恣意的に行われていることか、腹立たしくなる。新たな負担を言い出す前に、人員の整理をしないと、誰も納得できない。言い訳を言うより不正を正せ。
39	一人で出来る訪問も2人～3人で対応する。神経質に思える。暇なのだなと感じてしまう、一般人は。すぐれた（脳力）若い人を採用し、良い仕事の出来る人を望みます。
40	今は、箱根山の火山活動の件に対する対策や案が必要だと思う。県や国に働きかけることが必要と思う。
41	何故この時期(大涌谷レベル3になった時)に、このような書類が届くのか、理解できない。ホテルに勤務していますが、自分の給料も削られているのに、税金の負担が多くなるなんて、困ります。場合によっては箱根を出なければいけないかと、40才で、手取り20万ももらえない人の生活も考えて欲しい。
42	議員の人数・給与・歳費の見直し、特に歳費の無駄使いがないか、必要な支出と不必要な支出の更なる検討。税金未納者への対応。人口を増やす知恵が必要（病院、子育て支援等）。最初お金がかかっても人口を増やす。
43	町の議員さんが箱根町町民でなく、小田原他の方々だと、なかなか町民の気持ちが本当に理解して頂いているか心配です。
44	もっと町民同士が話し合いのできる場を設けて、より協力し合い、お互い助け合いのできる町にしてほしい。箱根町は観光地でもあるので、職業柄住んでいる住民の方々もたくさんおられると思いますが、老若男女問わず、お互い顔の見える、助け合いのできる町になってほしい。そうなれば、もっと良くなる方法や意見も出るかもしれない。町を良くするために、助けるために皆が率先して動けるような町にしてほしいです。
45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員の定数を減らす（町長などの給料も一般の人なみに）。</li> <li>・役場職員定数減らす（職員は町民にするべき小田原などの人は検討する）。※もっとやれることはやってほしい！</li> <li>・町民を増やす為、小さい子供達が住みやすい環境作り。</li> <li>・町民以外の方の入湯税を上げる。・ホテルや宿などのゴミの出る量に合わせて金額を上げる。</li> <li>・12月の道路工事（除雪で道路がボロボロに。行う時季を考えて下さい）。</li> </ul> <p>P.S. このままだとみんな町民は他に行きますよ！</p>
46	町ではある程度ガンバッテもらっているのに、増税などはやむを得ない。国が悪くしていると思う。

No.	記述
47	1. 昔から小さい子供と共に家族で遊べる所が少ない。 2. 公共施設があちらこちらにバラバラで行動しにくい（体育館とプールが別々の場所で意味がわからない）。 3. お祭りイベントを全国にもっとアピールして、にぎやかにする。 4. 箱根町の特産のもの？を老人とか暇な人たちがつくる（テレビで放送する）。 5. 公務員がもっと真剣に考え、工夫する。
48	大涌谷の噴火で観光客減少の現状で町民の負担を増やす情報を何故今告知しているのか理解できない。町政は町民の現状を把握しているのかどうか？収入減少、ホテル・宿も閉鎖しなければならない状況での負担増には絶対反対。
49	大涌谷の影響の件は書かれていませんが、今後の見通しとして、どのくらいのマイナスになりそうなのかを添付した方が良いと思う。それを含めて、再度考えてみたら、どうでしょうか。
50	あまりに他の市と比べて負担が大きいと、引越すことも考えてしまいます。温泉も、お年寄りには50円で入れますが、私達は150円です。こういう不公平をまず修正してから負担を増やす案は出して欲しいです。
51	財政難で町民に負担がくるのは理解できなくはありませんが、このままでは近隣の市町村への転出が加速すると思います。子供の学校（教育）や住宅事情で転出して行く方が何人も知人でいますが、。
52	年1回ぐらい、今回みたいなわかりやすい、資料や説明会をやるべきだと思います。今までは、箱根町は「裕福」と思っていた。
53	町長、町議会議員、職員、公共施設の維持費用など、全員によくわかるように公開し、そこから更なる削減をしてほしい。一般の会社では、今や1人で2人分、3人分の仕事をせざるを得ないのは当たり前になっているのに、役場ののんびりムードは納得できない。町民税を上げる前にやることをやってほしい。子供クラブも訳の分からない値上げ、土曜日の中途半端な時間帯では活用できるわけがない。子供を増やす気があるのか。
54	マッサージの負担は即廃止すべき。道路の整備は観光客誘致に必要なことなので、積極的にやってほしい。
55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ「枯渇」という前にこのようなアンケートをしなかったのでしょうか？素人でも思わぬいい考えを持っている人がいると思います。</li> <li>・今後「こうしていこう」という原案くらいないのでしょうか。困っています。負担をお願いするかもと言われても納得できません。</li> <li>・破綻寸前から立ち直った他の自治体とかへの研修などは？・観光地として好きな人の多い土地柄、全国に向けての「ふるさと納税」のPRとかは？</li> <li>・医療費削減に成功している超高齢地域の取り組みを取り入れてみるとか…。ポジティブなアピールがないと、住民としても前向きに動く気持ちになれません。</li> </ul>
56	箱根町人口13,000当たりからいって議員の数が多すぎる。
57	自治会及び各種団体への補助金が減少しているので、経費削減努力はわかりますが、一般企業と比較すると、まだ人件費が高いように思われます。又、別荘、リゾートマンション等の固定資産税未納分回収の強化により歳入の増加を計ってほしい。
58	1. 町会議員、職員の減員。 2. 施設管理維持費を要する建物の撤去。 3. 観光の町なので自然を活かして、観光客を呼び込めるような考案をしてほしい。
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城野保育園の新築は、必要なしだと思います。園児数においても、減少傾向にあり、無駄な事業だと思います。</li> <li>・ホテル、寮、従業員の住民税を箱根町に落として頂くため、住民票を箱根町にして頂く努力をしてほしい。相当な税金が入ると思います。</li> </ul>
60	町内へ訪れる観光客に直接、毎年1回100円の基金を募るのはどうですか。大涌谷の件もありますが、箱根を愛する観光客は必ずリピートしています。私もその一人でした。全ての観光スポットに貯金箱の様な物を置いておくのはどうでしょうか。全てのリゾートマンションを定住できる様に促し、町からも50代～60代の定住者を募る事ができれば介護以外人口も増えるのではと思います。
61	町会議員を減らすべき。社会教育センターのお風呂をもう少し活用すべき。地域の人へ還元すべきではないでしょうか。やまなみ荘みたいに50円に入れる様に。宮城野保育園の建て替え反対です。小人が少ない。

No.	記述
62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方が消極的に傾いて、それに伴って行動力も弱いと思う。</li> <li>・お金の負担に頼る以外にも、もっと必要なものがあると思うし、現在ある予算の中で、最大限にやっている結果が国と同じで我々の目に見えない。</li> <li>・多様な種のボランティアなど積極的に人々が協力+エンジョイして町を改善、活性化する必要があると思う。ポジティブ思考大事です。</li> </ul>
63	町民に新たな負担が発生すれば、人口流出が加速するだけでは？行政サービスのレベルが低く、不便な町に住むより、小田原へ引越した方が、と考えるのは富裕層で、結局、町に残るのは、高齢者と低所得者、そして財政悪化の負のスパイラル。町の職員だって小田原在住ですもんね。これまでの失政の責任を住民に押し付けるとは、。もっと責任体制を明確に！！
64	滞納者から徴収し、厳しくしたほうがよいと思う。新しく建物を建てるのではなく、ある施設を活用したほうが良い。
65	こんな最悪な状況になる前に手を打たなかった町の責任は大きい。それを町民に負担させるとは全くの見当違い、何か大きな勘違いしてませんか？一度、町長？はじめ全員若い年代に入れ替えたらどうですか？
66	公共施設を使用する際（駐車場やセンターを使用）に0円は絶対にいけないと思います。長期に使用すると必ず不具合な所が出て来ます。それを修理する為にも多少でも使用料を集める事だと思います。敬老会も75才以上にしたり、ごみ処理にも、救急にも思いきってやらないと町が成りたたなくなってからでは遅いです。毎日町の防災無線の放送に胸が痛みます。速くしないと町がなくなります。
67	湯本駅前の河川を温泉に来たなと思わせる作りにする。観光客からしたら、ただの地方、、、湯畑のような温泉のシンボルが必要だと思う。若い夫婦が住みやすい環境作り。老人ばかりで子育てしづらい学校など、これでは、人口が減るのはあたりまえ。仙石など、電車のない地域の深夜バス営業など、とにかく働き盛りの若い夫婦を取り込む努力が必要。老人ばかりだと町の未来は無い。
68	任期付の企画担当の人材の採用、新たに全国から人材を取り入れる一般公募する。既成概念を払拭し、新たな町のリーダーを採用。新たな町の発展を企画し、最終的に増収に繋げる。特に町長以下の役員を一般公募する事が絶対必要。
69	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社と提携してお客様を呼び込む。</li> <li>・宮ノ下周辺にスーパーマーケットを作り、町民に買い物してもらう。</li> <li>・温泉街にボーリング場などを作り、若者を呼び込む。</li> <li>・交通の便を良くする（箱根の上の方は、電車が少ないし小田原などに出るのに時間がかかる）。</li> </ul>
70	宮城野のさくら館、元箱根のレイクアリーナなど維持管理に係る費用が大きいものはいらない。町の職員は何もしない職員が結構目立つ。冬、大雪が降っても来ない。猪が出没しても来ない。連絡しても電話で済ますなど怠慢すぎる。又、公用車のガソリンについても値段に関係なく高いところで入れている。町民の税金から出ていることを本当に知っているのか？町民の為に仕事をしない町会議員、職員はいらない。減らせ！！税金のそれこそ無駄遣いだ！町長や副町長のボーナスが高過ぎる。他の町を見てみる！まだまだ言いたいことは山ほどある。周りの市町村を見習え！
71	行政サービスに依存し過ぎている町民の意識を変えないといけない。時代の流れでもあるが、すべてが行政まかせ。町民に主体的な動きが見られない。昨年大雪の際も、家の前（付近）の雪かきは雪国では当たり前で、普通は半日あれば道路はクリアになるはずが、誰も雪かきをしない。つまり行政まかせ、税の負担…。町民の主体性を意識付ける改革が必要ではないかと思う。加えて、都会や地方からの高齢者が「箱根ブランド」で、一人で町営住宅等に移住して来ているが、そういった移住者が、社会保障費の増大に加速を付けているのでは？古い公営住宅は順次撤去させ、独居の高齢者を、家族で見守らせる方向につなげていく必要がある。
72	町職員が多い。ボーナスカットそのぶん経費に回す。
73	町民から新たな負担をかけることより、町全体の増収につながる観光業などの入湯税などによる増収、イベントなどに力を入れてほしい。
74	アニメのナンバープレートの発行や、関所跡に30億使ったり、行政の無能さが目立つ。町長は仕事をしているのですか？町の施設のムダな委託、何をやっているのか、本当に仕事をしているのかわからないほぼ実態のない事業、稼働率がほぼ無い公共施設で人件費をいくらムダ使いすれば気がすむのか、町長の給料が一番ムダですね。
75	維持費がかかるのでレイクアリーナは取り壊すべき。今年も維持費がかかる。
76	さくら館にも図書室があったらいいなと思っています。



No.	記述
77	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員の削減と給与の削減。</li> <li>・スポーツ教室の見直し（陸上、サッカー、マラソンなど必要か？）。</li> <li>・町広報紙等の見直し、紙質が良く、写真もカラーなど無駄な気がする。部数の見直しも、。</li> <li>・公共施設での光熱費、備品、消耗品費の削減。・生活保護、福祉の見直し、手厚すぎる。</li> <li>・ふるさと納税など増収の手立て。</li> </ul>
78	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーパスから観光税を徴収。</li> <li>・人口増への対策、移住のすすめ、住宅地の整備、子育て支援日本一。</li> <li>・箱根ロープウェイを災害に耐える仕様とし、早期運用開始の依頼を行う。</li> </ul>
79	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、国主導の意味のない工事など見直してほしい。町としての力がないのか、議員が役不足なのか、。議員の削減望む。</li> <li>・せっかくの有名温泉地域にも関わらず、草津や野沢温泉などのような朝早くから入れる公共温泉がない。規模の大きい施設を作り入湯税やその他の収入につながる物があればよいのに。</li> </ul>
80	<p>皆様毎日大変ご苦労様です。当箱根町も他市町村同様人口（世帯数）減少による町税収入の減少、これ等に反し経費の増大により基金等の限界、ここまで来たら思い切った政策を実施し安定した財政施策を実施すべきです。まだ間に合います。1. 毎年思い切った増税をお願いします。但し脱税は絶対許さない。2. 町の職員まだまだ多い。思い切った経費節減。3. 町議会議員の手当て50%減。 思いきってやって下さい。</p>
81	<p>町の施設の入場料（森のふれあい館等）、全て無料ではなく、50円、100円でも町民が払う様にするとか、急に違う形で負担をさせられるよりは、良いと思います。</p>
82	<p>箱根で働いている者として、こんな状態では、これからの自分の生活が大変で町の財政を考える余裕がない。財政が苦しくなるのは、とっくにわかっていた事、若い人が、働く所、住む所もないから、老人が増えるのがあたり前、若い人に残ってもらう為に町は何かをしてきたのか？もう、箱根老人タウンを作るか市町村合併するしかない、おそすぎる。</p>
83	<p>私は昨年秋にこちらに引越してきた者です。ホテルに住み込みで働かせていただいています。町の財政のプリントを見せて頂き、ビックリしました。本当に大変な事ですね。私には難しい事はわかりませんが、箱根町の町長さんはじめ議員役員の方々、本当にお疲れ様でございます。</p>
84	<p>箱根町の町民を採用して、税金が町に入る。町外の人を採用ばかりしているのに不満があります。税金は箱根に入りません。</p>
85	<p>大涌谷周辺のみ立入禁止が、報道が箱根山となり、余りに危険情報が大きすぎ、箱根全部が危ないと世間に思わせてしまったのでは。又、何とか大涌谷の温泉が（ロボットを使用するか）元のメンテナンスが出来供給される事が待望されます。それにより観光客も増え、商店、ホテル、旅館の従業員も元通りに戻れる様に切に望みます。</p>
86	<p>町の職員を全員箱根町在住の人にしたらいいんじゃないのでしょうか。これ以上新たな負担が増えると生活がとてもしんどくなります。</p>
87	<p>家庭でも財務がひっばくすれば支出をおさえるのはあたりまえ、県内の自治体比較で下位とはいえ、1人当たり753万円は低くはない。箱根町の住民の平均給与と比較してますか？全国的にも希少な多額な入湯税収入がありながら、健全な町運営ができないのは、町長をはじめ議員や幹部職員の能力に疑問。</p>
88	<p>全国屈指の観光地なのだからそこからの収入をもっと考えた方が良いと思います。町民の税金を上げるなどの対策は考えない方が良いと思います。また専門家の意見を聴いたり、このようなことで同じ境遇にいた他の市町村の経験談、成功事例などを参考にするなどして町民も箱根に居たいとか箱根が好きとか思える町にしたいものです。まだまだ箱根町だからできることが他にあると思います。</p>
89	<p>老朽化した施設等の統合及び取壊し。</p>
90	<p>新たな取組についての提案ではありませんが、負担の必要性はあると感じている中で、教育費の削減はやめてほしいと思っています。町の未来を担う子供たちのために、ぜひ負担の内容で現状維持をお願いしたいです。</p>
91	<p>大涌谷の噴火等の影響をうけてさらに悪化も考えられるので、湯本地区等の大涌谷からはなれている所をしっかりと安全を発信してほしい。温泉幼稚園と宮城野保育園を合併させ、温泉幼稚園を民間に売却すべき温泉幼稚園の児童向けに宮城野までの園バス（ジャンボタクシー）を委託すべきと思う。</p>

No.	記述
92	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年のオリンピックに向けて、町では観光客の増大の計画は出来ていますか？観光業を活発化し、町税を増やして行く（呼び込み、引き込みする）。</li> <li>・今まで行って来た事業など再度見直しをして、現在のやり方に変えて行く（昔からのやり方ではなく、現在に合うやり方）。</li> <li>・イノシシ対策など半年で9頭位処理しても無駄。イノシシは1年で5～6頭の子供を産む。町からの助成金で柵などして、餌場をなくすことにより、来なくする。</li> </ul>
93	<p>昼間人口2万人、常住人口1万2千余、差7千人余が箱根町内で所得を得ておりその住民税、固定資産税等は他の市町村へ納入している。また、箱根町で稼いでいる事業所の本社機能がどのくらい町内にあるか不明だが、その法人住民税、固定資産税が所得に見合ったものになっているか等を考えると、新たな負担を常住の我々に課せることに抵抗を感じる（平成22年10月1日統計資料で他市町村から町内へ従業に来ている人口7,763人）。</p>
94	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の人口流出を止める努力をしなければ、税収入は減る一方だと思います。町で働いて収入を得ながら、住居は小田原という人が多く、住民税も減る一方です。町役場の職員しかりで、安い町の保育施設に子供を預け働くというのは虫が良すぎます。住民でない方は保育料を私立なみにすべきです。また、観光施設も住民を労働者としている所は税金を優遇し、他の市町村から住居を移すべく働きかけた方がよいと思います。</li> <li>・子供の教育も児童が少なすぎ。孫の教育をどうすべきか思案中。転居する人も益々増えると思います。小田原の学校と統合してほしいです。このままでは子供に箱根に住めとは、言えません。</li> </ul>
95	<p>ボランティアでも出来る事があれば育成や利用も“あり”ではないか？</p>
96	<p>山を崩し、美術館を建て、そこに観光客がどのくらい入っているかは分かりませんが、その施設からの税収入を得るより、会社を呼び込み法人税を増加させた方が町の税はアップしそうですが、この大涌谷が終息しなくては、どうにもなりませんね。箱根は大好きな所です。なんとか税収を増やしたいとは思いますが、町民も大変です。交通費は高いし、暖房費はかかるし、負担増にならない事を願います。1つ疑問があります。生活保護を受けているのに、高価な車を持っている人がいるのはなぜですか？名義が本人ではないようですが、民生委員もどこまで把握しているのでしょうか？母子家庭の私にとってズルイと感じます。</p>
97	<p>税収の減少→ずっと前から分かっていたこと。社会保障関係費→同じように増大は分かっていたこと。サービス水準向上・維持→福祉、子育て、防災に費用をつぎ込むことはどの自治体も命題では。公債費増大と地方債減少は車の両輪、町のプライマリバランスが崩れているのだから、当面はどちらか突出することになるのはやむを得ないと思う（町は理想を求めすぎではないか）。新たな負担を町民に求めるのもある程度理解できるが、それ以前に地方交付税をうける団体になった方がよいと思う。箱根町は「やせがまん」していると考え。</p>
98	<p>国勢調査から得られる町内人口動態は、行政上貴重な判断資料として、折に触れ活用されているものと承知いたしております。古い案件にはなりますが、今にして思えば一番の誤算の象徴的存在として、湯本小、中学校々舎の現状があります。日々それを目のあたりにする時、昨今早くも白紙化された国立競技場建設の事案と、幾つかの部分で共通点があるやに思われてなりません。残念でならない事は、小学校建設での誤算を中学校に於いても繰り返してしまった事です。身の丈に余る構築物を抱えてしまったその時から、メンテナンス費用は町民の税により消失し続ける訳であり、厳しい財政事情故に、より一層の戦略的英知に期待する次第です。</p>
99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口ピラミッド等、何十年も前から少子高齢化が進むことは予測できたはず。国をはじめ、末端の市町村行政も、反省し、更なる人件費削減、事務の簡素化を進めるべきと考えます。</li> <li>・特にボランティア精神、プロ意識なき職員は、条例等を変更し、直ちに削減すべきと思います。</li> </ul>
100	<p>特になし</p>
101	<p>むずかしい事はわかりませんが、住みやすい町になれば人は集まってくるのではないですか？箱根を離れて行く人が多いように感じています。30年前は、にぎやかだった宮城野も1軒、又1軒とお店が閉められ淋しいです。私も年齢を重ねるにつれ近くにスーパーがある坂のない所に行きたいと思う事があります。元気な箱根になるよう希望します。</p>

No.	記述
102	新たな負担の必要性は理解できますが、これを全部住民の負担とするのは如何がなものかと思ひます。道路等のインフラの老朽化が進んでいる。歩道等…。何十年も住んでいる住民は、きれいな状態ではない、きちんと感がなくなっているように見ていてわかります。観光客(登山者も含む)環境費としていくらか負担も考えてほしい。住民にとって必要なごみ処理などにかかる負担と観光客分のものと、一緒にはしてほしくないです。なぜなら自分は箱根で仕事をしていない、家があるだけなので、収入は他市で貰っていて税金だけ町に納めている。救急車も殆どが観光客が使用しているようにみえる。
103	職員数を減らすべき。人口25,465人(7月1日現在)H26の職員数312人。となりの湯河原の数字である。町職員の給与を他の自治体と比較しているが、職員数も比較して、町民に提示すべきである。公共の施設が他の市町村と比較して多いか少ないか、これも町民に提示すべきである。自分たちがいかに頑張っている証しを残すために、余計なことをますますやっている感がする施設もある。
104	まだこちらへ越してきて1年経っていないので、あまり意見はありませんが、町民が協力できることはやっていくべきだと思います。
105	もっと大きな人件費の削減の実行が必要ではと思ひます。町民の人口が減なのに町役場(公務員)の数が多すぎます。人口に見合った削減が必要。町会議員の数が多すぎます。町会議員を半減するか、支払いを半分にするか、検討してください。町会議員は専任ではなく併任でも良いのでは?仕事を他に持った人がなれるように制度を変えて、議員にかかる経費を削減してください。新たな増税はまったく理解できない。町が夕張のように破綻しなければ誰も改革をしようとししないのでは?町の説明を聞いても、どのようにしたいのかわからない。努力が見えません。
106	問9において人口減少が進む中で、どこまで町民に負担を課すのかは慎重に対処すべきことと思ひています。アンケートであまりに知らないことが多いと思ひました。行政と町民との連携の部分で地域を活性化するための具体的取り組み等コミュニケーションの場が必要かと思ひます。
107	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人施設の誘致。</li> <li>・宿泊施設従業員の町民移行推進。</li> <li>・子供達の学力・体力増進(県内上位に入れる様)。</li> </ul>
108	人件費が高いのは地域特異性で観光客が多いからとしても、職員1人あたりの町の収入額(歳入総額/職員数)が他市町村と比較しても、少なすぎる。減少する収入により職員数も自ずと減少すると思うが、現在のバランスは悪すぎると思う(歳出削減のため出向でもしますか?)。
109	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児・者に対する福祉はセーフティーネットの意味からも地域格差をつけるべきではないので、削減は反対だ。弱者救済は忘れてほしくない。</li> <li>・汚水処理施設の運営(年間4億と聞いた)は、国に任せてはどうか?</li> <li>・今回の大涌谷の件で、観光地がどれだけ風評被害の打撃を受けるか痛感するとともに今までの箱根のありようにも反省した。土産店や旅館従業員の態度の悪さや、インフラ整備の足りなさなど。あと、家族連れが遊ぶ施設が少ないと思う。ある程度安価(現在は高すぎ)で子供が楽しめる施設、イベントを企画したらどうか。→箱根が舞台のマンガ(弱虫ペダルなど)がたくさんあるので、それらとのコラボも考えたらどうか。</li> </ul>
110	若い人の定住をもっとすべきだと思う。子供の居る人達を引き止めるようにすれば良いと思う。サービス業に合った保育園や学童保育の充実をもっとしっかりやってほしい。他地域の方がいろいろ整っているの、ある程度子供が大きくなるとみんな引っ越してしまうので淋しいかぎりです。
111	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の施設が多くある中で、他所から入所後、住所変更され、社会保障費が大巾に増加し、箱根住民の負担となって、収入のない高齢者にも介護費等として、及んでいるのではないのでしょうか?</li> <li>・箱根町の固定資産税についてですが、戸建より、マンションの評価が高いのでは?売買事例では、購入時より1/5~1/10の価額になっているのに当初より1~2万しか安くならず、毎年10万円以上の年の支払いは負担が多く、不満に思えます。</li> <li>・今後これ以上の種々の負担には、無収入の高齢者には、耐えられそうもないのですが…。行政のより良い執行に期待致します。</li> </ul>
112	<p>①さらなる観光客の誘致、年間2000万人→2500万人。・無料駐車場の拡大、特に湯本地区、中学校跡地の活用等。・パワースポットのPR。・七福神めぐりのPR、完走記念品贈呈(お礼など)。・海外観光客のバス誘致、昼食会場、大型駐車場。</p> <p>②ふるさと納税アップ対策。宿泊補助券、黒たまご、湯の花など、謝礼品の魅力アップ。</p>

No.	記述
113	・人件費の削減(特に賞与を民間企業並みにしてみても)・公共施設の利用状況によっては、閉鎖もしてみてもは・人口に対する職員数が多すぎる(議員も含めて)・新たな収入源を考えてみては(税金ではなく)
114	色々な事を考えて事業等を行ってほしい。人材も必要な人とそうでない人などきちんとしてほしいと思う。給料泥棒にならないように。
115	町議員数の是正、近隣地域へ流出してる人々を町へ定住してくれる様、魅力ある町造り。本年は大涌谷噴火のため観光客減少も合併も考えてみれば(減収・税滞納等)。
116	町民の負担を増やす前に、職員の見直しを!! 町外の間人ではなく町内の間人をつかっては!? 職員(一般企業の1/5以下!!)→数が多いだけで1人の仕事量が少なすぎる!!
117	町民から税金を回収する前に町長の退職金などを見直した方がいいと思います。無駄に退職金あげすぎ!! 箱根に来てもらうのに、もう少し道路を整備・増加させた方が観光客も増えるのでは?箱根主催のイベントなど。
118	町長給与・議員報酬・職員給与を直に半減し、真の行財政改革に取り組むべきです。今後、町民に新たな負担をさせることには反対です。新たな税の負担の必要性は全くありません。役場・議会はもっともっと身を削る(人件費・交際費・食糧費・旅費等)行革が必要です。町として行革の推進とともに非正規労働者への支援に積極的に取り組むべきです。町内に住民票がなくても非正規労働者の雇用・労働相談ができる救済のネットワークを構築することを強く求めます。
119	・本当に必要な所にお金を使ってほしい。 ・箱根町って観光地なのに集客に努力してます? ・子供が住みにくい。 ・出来れば小田原等に行きたい。
120	観光地なので、観光に関わっている会社から新たに税をとればいいと思います。
121	・入湯税を現況の150円から10円~20円程引き上げる。 ・ふるさと納税をうまく利用する。 ・現在のお礼の品をもっと魅力的な物へと変更する。
122	町営住宅を外部企業への賃貸やオリンピック合宿所提供(日本選手だけではなく、ジャスパ(カナダ)、スイス etc.)。町全体が国際化すれば、日本人観光客、企業も付いて来るはずですので、町民よりも外部からの税収アップを考えたほうが良いと思います。
123	必要である事業と言っても、現在どのようなことがあってどんな状態なのか。出身が他県なのもあり理解出来ていない。もっと公報など見やすい提示があっても良いのではないか。他県から住民票を移している人も周りに大変多いので工夫が必要と思う。
124	箱根に居住していても町民税を納めていない人が多いと思います。納めていない人、又は企業に対して負担の必要性を理解してもらい税金というかたちでなくても、お金を納めてもらう。町民だけでは負担が大きすぎる! 町会議員も人数を削減したほうが良い。町に住んでいる人全員で町を支えていけたらいいと思います。
125	3期、4期と続ける町長の下、切羽詰まってからアンケート。さすが消滅都市第1位の箱根町。若い人を流出させない呼び込む事を怠った結果ですね。まずは、全ての町職員を箱根町住人にしましょう。どうしても住めない人はふるさと納税を必ずさせましょう。それも出来ない職員にはやめてもらいましょう。
126	オリンピックへ向けて中国人など外国人などが増えるので中国語・韓国語・英語・フランス語などの看板を増やすべき。
127	・河川に白濁した水が流れている事がある。ここ数年、特に駅前あたりで見かけることが多い。 ・旧道、国道沿いの森林の手入れ、伐採などがなされていないように見える。私有なのか国有なのかわからないけれど豊かな自然を守るための手入れは必要不可欠かと思う(土砂災害等を未然に防ぐためにも)。 ・町会議員の定数に疑問→人口が減少している中で定数が変わらないのは何故なのか。約30年前の人口(1985年 19,792人)ならばわからなくもないが、現在の人口(2015年 11,569人)では10~12名程が妥当では(人口が増えたら定数を戻すということも可能ではないかと...)。 ・観光資源はもとより環境資源の保全にも力を入れて数十年、数百年先を見据えた施しを願います。

No.	記述
128	先日の説明会のお話を友人より聞き、上記、町の財政状況は知っておりました。外国人観光客の増加に伴い問8の支出増や、少子高齢化に伴い問2、問4が増加には理解できます。しかし山口町長になってからのマンション乱立、旧仙石原中学校の無償に近いレンタル・観光立町であるにも係らず土日祝日の町の対応のなさ。箱根で生まれ育ち現在は観光業に携わっている者として、箱根町の無為無策。無為無能に憤激しています。まず、町会議員の人数削減・町役場委託会社との契約解除・役場職員の人数削減。できる事すべてを試みた上で新たな負担と思います。
129	負担の必要性を理解は出来るが、もちろん心情としては嫌だ。
130	何十年も前から町の人口が減少しているのはわかっていたのに、その対策を町がやってきたのかが解からない。若い世代を町へ呼ぶための取り組みがあったのか？子供が生まれ、箱根に帰ってきたが周りに同年代の子供はいない。子供が遊ぶ所がない箱根に住むのに全く魅力がない。その上、財政が厳しくなっただけでどうしようなんてもっと前から考える。若い世代、子供が増え人口が増えないと住民税が増えないことなどバカでもわかる。近いうちに箱根からは出る予定だからいいが。残る人たちのためにも早急な対応が必要なのではないだろうか。
131	町民の負担が増える。それは仕方の無い事だとは思いますが、それ以前に本当に町が努力をしているのかが町民には見えません。10年以上、人件費を削減したとの事ですが、では実際に町長や町議の方々はいくらもらっているのでしょうか？又、財政難であるのに何故アンケートをカラーにしたのでしょうか。本気で経費の削減に取り組もうとしているのでしょうか？その姿勢が見えません。民間企業は赤字が続けば倒産します。だから必死に黒字化を目指します。どこかに公務員だからという気持ちがあるのではないのでしょうか？まだまだ無駄が多いと思います。
132	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メリハリのある税の使い方。</li> <li>・他の市町村の慣例を覆すような条例などによる外国人にアピールすべき策がまだまだあると思います。</li> <li>・住民参加型の行政を望みます。</li> <li>・箱根に7~9千円位で宿泊できる所を増やせば客数は必ず伸びます。</li> </ul>
133	新しい(全く違った)意見を外から入れて事業を見直す。
134	職員給与をラスパイレス指数で他と比較しているが、金がない自治体は給与を抑えるしかないのではないのか。町に住む人の給与と比較してみれば高い給与をもらっていると思う。金がないから新たな負担を求めるといった考えが理解出来ない。収入が増える施策を考えたら良い。
135	人口が少ないので町は住民に負担を強いるということだけではなく、町の事業などを開拓する必要がある。ホームページなどにも前向きさがみられない。町おこしを考えなくては無理でしょう。箱根は世界の箱根です。もっと色々ディスカッションして事業をしていかないと無理です。軽井沢はゴミ袋をととても高く売ります。財政上当たり前です。熱海は別荘税をとります。取るだけでなく、この今非常時にこのままで良いわけありません。観光で泣いている沢山の方、入り口がダメで犬11匹と放り出されてしまった早雲郷の方、犬がいては非難できません。暖かく皆で助け合って今を乗り切り、熱海とは格の違う箱根を盛り返したいです。アンケートだけではなく考える、実行するアクションを期待します。
136	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員定数削減10名にする。</li> <li>・町職員の箱根町居住化（住民税が町に納付される）及び地域住民の優先採用（職員として）</li> <li>・レイクアリーナの廃止</li> <li>・3号公共下水の見直し（公共下水にする必要があるのか） 上記のような事について不要であると思う事が色々あります。新たな負担は不要な事を刷新後実施するべきである。</li> </ul>
137	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費のかさむアリーナ。さくら館他の施設を見直して、仙石中学のように必要な学校、企業団体に貸し出す（箱根町民の使用頻度が低いと思われる為）。</li> <li>・町の議員が多すぎる。・観光産業での依存が多い為、コンビニばかりで買い物も出来ない。</li> <li>・自然を守るのは分かるが、少しは山を開くなどして住宅地の造成や町の目玉になるショッピングモールの様な所とか大手企業の工場や会社が箱根町に造りたいと思う町づくり。</li> <li>・消防の人数が多い。</li> <li>・箱根町（湯本より上の所）にまで高速道路を引いて外の住民を箱根に移住してもらおう。</li> <li>・観光客も大切だけど町民の生活を良くしてください。</li> <li>・元々の箱根の人は不便で出て行く人が多い。</li> </ul>

No.	記述
138	町役場に勤務している方々が、暇そうにお見受けする時が多いように思います。人件費の削減や徹底的な経費削減への対策をまずは実行すべきでしょう。
139	箱根町が単独でいるのは難しいと思う。やはり小田原市と合併になるのでしょうか。
140	宿泊施設の従業員など、町内に居住しているにも関わらず住所の変更をしていない者があまりに多く感じられる。改善の方法はないか…
141	透明性の高い財政状況の公開。職員の人事評価制度の導入等をお願いしたいと思います。
142	財政難というのであれば、いろいろ削減するべきではないでしょうか？レイクアリーナはどうですか？それ程、必要性がありますか？あと、上記とは異なりますが議員数の削減も考慮すべきでは？町の人口もどんどん減ってきているのですから！
143	給料に見合う町職員がいません。町長にしても、他地域からとは理解できません。まず、公務員からむだをなくし、たて直してほしいです。
144	現況では国保の金額、町民税、固定資産税など、これ以上の負担は無理です。今までの行政の結果がこのような状態になったのも確かです。責任はどこにあるのかもっと検討が必要だと思います。今町民にばかりの負担の増加はおかしいです。全国でも箱根町の職員の数に上位だと（人口に対して）聞いています。もっと努力してください（目先の事だけでなく）。
145	今、この現況下で、このアンケートをする必要があるのでしょうか？町長以外に危機感をもっている職員がいないように感じます。民間が泣いている以上、公務員の給与にも手をつけるべきだと思います。
146	なぜ、オフシーズンにアンケートを取らないのですか？観光業は夏が忙しいのが理解出来ないのですか？ただでさえ収入が減ってがんばっている事業者には（アンケートが）イライラする。町内の人を役場に入れて小田原など町外の人との通勤、住宅手当等減らして町内にお金がまわる様にしては？箱根に住んでいれば町の中がどんな様子かちゃんとわかるはず。
147	ごみの分別を徹底すべき